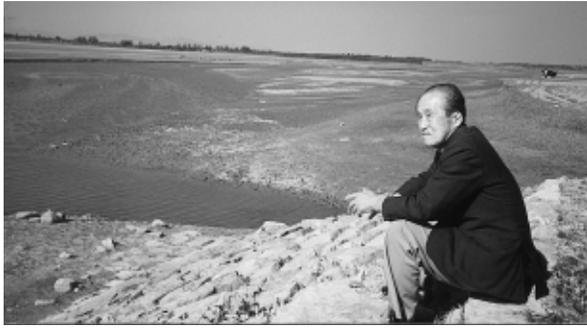


# 1988年



「逝く者は斯くの如きか。昼夜をおかず」、曲阜郊外、泗水のほとりで『孔子』の構想を練る井上靖会長。これが最後の訪中となった  
—1988年5月7日

井上靖氏(当協会会長)原作の映画「敦煌」全国公開に合わせ、当協会など主催で「シルクロードの美と神秘 敦煌・西夏王国展」を各地で開催、敦煌が一つのブームとなった。国内ではリクルート疑惑が発覚、政財界を巻き込んだ一大疑獄の様相を呈した。中国では民主化運動が各地に広がるなかで鄧小平氏が国家中央軍事委主席、李鵬氏が総理に選出された。ソウル五輪に中国選手団が参加。  
へ八八年の主な交流



幕、当協会、映画「敦煌」委員会など主催、引き続き、広島、大阪、東京等でも開催。



山東竜の全身骨格化石を展示 世界最大級の山東竜(シャントングザウルス)の化石が展示され人気を集めた。中国地質博物館が所蔵するもので、海外初公開であった  
—1988年5月28日 岐阜・「山東竜館」

映画「敦煌」完成披露試写会に出席した中国映画代表団の陳昊蘇団長(左一)、李瑛副団長(右三)、胡健秘書長(右二)の諸氏、中島源太郎文相(右一)とともに完成を喜ぶ原作者の井上靖会長(左二)  
—一九八八年四月十二日 東京



◎3月 岩波ホールで中国映画「芙蓉鎮」(謝晋監督)のロードショー始まる。  
◎4月 毎日フォーラム「敦煌・西夏

「敦煌・西夏王国展」開催 同展は、映画「敦煌」上映を記念したもので、華麗な出土文物が展覧され好評を博した  
—一九八八年七月 東京・日本橋高島屋

を語る」大阪で開催、井上靖会長が講演。中国映画代表団(陳昊蘇団長 来日、映画「敦煌」完成披露特別試写会に出席。「中国江西省文物展」岐阜県美術館で開催(当協会など後援)。日本産業界代表団(圓城寺次郎団長、西尾信一、塩谷忠男、吉瀬維哉、大久保毅、野々内隆、合田耕平、木村美智子の諸氏)訪中。高山辰雄氏一行訪中、敦煌へ。  
◎5月 井上靖会長一行(井上会長、白土吾夫、佐藤純子、横川健の諸氏)訪中。東京で第二回日中石炭化学シンポジウム開催、中国石炭化学代表団(程懋圩団長)来日。上方花舞台「長安の春」公演参加中国獅子舞公演団(杜宣団長)来日。中国出版代表団(王強華団長、李芳、沈昌文、秦志賢、楊文增、王福珍の諸氏)来日。  
◎6月 中国文学芸術界連合会代表団(黃胄団長、露菲秘書長、魏喜奎、何南丁、袁一凡、張子良、朱根全の諸氏)来日。日本「中国曲芸鑑賞」訪中団(岡本文弥団長、戸板康二顧問、岡本富士太夫秘書長)訪中。映画「敦煌」全国で上映始まる。  
◎7月 ぎふ中部未来博覧会が岐阜市で開幕、「山東竜館」(主催・当協会、中日新聞社など)で世界最大級の恐竜化石「山東竜」を海外初公開。日本「民法・環境法」学者訪中団(野村好弘団長、浅野直人秘書長、植木磯雄、宇都宮正治、松本恒雄の諸氏)訪中。  
◎8月 中国人民対外友好協会代表団(林林団長、張忠培、靳尚誼、王金城、鄭民欽、王雲濤の諸氏)来日。松山市



中国出版代表团が来日 中国との交流を積極的に進めている凸版印刷を訪れ、鈴木和夫社長(右一)の歓迎を受ける王強華団長(左二)、李芳(左一)、王福珍(右二)の諸氏ら

—1988年5月23日 東京



日本文化界囲碁代表団が訪中 北京で首都文芸界囲碁連誼会のメンバーに指導碁両面打ちをする呉清源氏

—1988年10月4日 北京・労働者クラブ



名古屋・御園座での歌舞伎公演鑑賞後、楽屋に中村歌右衛門氏(右二)を訪ねた中国演劇家代表団の劉厚生団長(右一)、俞琳(左二)、曲六乙(左二)の諸氏

—1988年10月15日



タカラクラブ代表団が訪中 「ありがとう基金」を中国紅十字会に贈呈した。崔月穆会長(左)は、濫澤多歌子団長(右)ら一行に謝意を述べ、趙樸初名誉会長揮毫の書を贈った

—1988年9月十三日 北京・釣魚台国賓館

中学生訪中団(和田辰久団長)訪中。雲南省舞蹈家協会代表団(龍翔団長)来日。日本演劇照明家訪中団(秤屋和久団長、鬼沢洋子、西川明、尾藤俊治らの諸氏)訪中。

◎9月 團伊玖磨代表理事が瀋陽での音楽会で遼寧楽団を指揮のため訪中。日本作家代表団(小田切進団長、田久保英夫、如月小春、横川健の諸氏)訪中。日本「美術評論家」代表団(河北倫明団長、桑原住雄、ヨシダ・ヨシエ、富山秀男、川口直直、小暮貴代の諸氏)訪中。日本「賠償医学」学者訪中団(渡辺富雄団長、平沼高明、平岩幸一、山内春夫、鈴木俊光、支倉逸人、高取健彦、若杉長英、津田征郎、武市早苗、徳留省悟、伊藤直、増井美保の諸氏)訪中。日本タカラクラブ代表団(濫澤多歌子団長、佐藤純子秘書長)一行十八名訪中、中国紅十字会を訪ね「ありがとう基金」中国残留日本人孤児の養父母のために募金した福祉基金・二次にわたる追加を含めて総額八千七百五十四万七千九百八十五円)を贈呈。

◎10月 中国演劇家代表団(劉厚生団長、歐陽山尊、俞琳、曲六乙、姚錫娟、法蒂哈の諸氏)来日。国際交流基金賞受賞のため夏衍氏が来日。日本文化界囲碁代表団(呉清源顧問・九段、江崎誠致団長、八匠衆一、井上光晴、笠原淳、白川正芳、斎藤宜郎、大島正雄、中野暁の諸氏)訪中。中国書道家代表団(黃綺団長、劉炳森らの諸氏)来日。第五回日中テレビ祭参加日本代表団(大越幸夫団長)訪中。経営法曹会議訪中

団(矢野範二名誉団長、和田良一団長、倉地康孝、小長谷國男、大久保純一郎、高谷圭一、森田武男、中村恵、小林浩平、佐藤博史、山田靖典、加藤公敬、松崎隆、木村美智子の諸氏)訪中。中国卓球選手団(邱鐘忠団長)来日。

◎11月 日本「中国曲芸鑑賞」訪中団(岡本文弥団長、戸板康二顧問、川上桂司、吉川英史、郡司正勝、林えり子らの諸氏)訪中。

りを持つことができる。

(九十九)

敦煌がブームになったこの年、協会の科学技術分野の交流を長年担ってきた水科篤郎常任理事(京大名誉教授・化学工学者)が亡くなった。氏の初訪中は一九六五年、日本化学工学者代表団の団長としてである。公務員だった氏には国交の無い中国への出張はもちろん、休暇もだめ、「無断欠勤という扱いで許可になりませんでした」と笑顔で当時を振り返っていた氏だが、相当の覚悟があったのことに違いない。その後の訪中も常に斯界の第一線で活躍している人士で団を編成し、訪日団を迎えるに当たっては、最善の交流が可能な日程を組むために骨身を惜しまず献身された。それは、展覧会や舞台芸術とは違い、多くの人々の目には触れることのない、百パーセント地味な交流だった。しかし、中国経済発展のための基礎体力を養う分野で、水科氏と協会が科学技術交流を通じて果たした大きな役割に誇

りを持つことができる。